KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS

川崎医療短期大学

広報誌　No.92

蒼きいのち

特集　各学科の学問のルーツを探る

- 担任から卒業生へ
- 栄えある受賞者／留学生帰国
- 松丘会（本学同窓会）による学生表彰／学友会新役員紹介
- 医療保育科オペレッタ発表会
- FD・SD研修会の報告
- 川崎エコプロジェクト／防災訓練／医療介護福祉科公開授業
- インフォメーション

放射線技術科 臨床実習（撮影：二葉写真館）

特集：各学科の学問のルーツを探る

本学は、看護科、臨床検査科、放射線技術科、医療介護福祉科、医療保育科の5学科で構成されています。各学科の学問には、長い間育まれてきた歴史や様々な発見があり、専門家を目指すにはそのルーツを学ぶことが重要です。学問の歴史を知ることで、偉人たちの教えを受け継ぐことができるのです。偉人による発明や発見があったからこそ、現在の学問が成立してきたと言えるでしょう。

今回の特集では、各学科に共通する科目である「人体の構造と機能」と、5学科の学問のルーツを探ります。参考文献を掲載していますので、皆さんもそれぞれの学問の歴史をひも解いてみてはいかがでしょう。

700

701年【現代介護福祉の祖】光明皇后 誕生

1600

1632年【顕微鏡の考案・細菌発見者】アントニ・ファン・レーウェンフック 誕生

1700

1800

1810年【幕末の蘭学者】緒方 洪庵 誕生

1820年【現代看護の祖】フローレンス・ナイチンゲール 誕生

1900

1845年【X線撮影の祖】ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン 誕生

2000

1882年【我が国の幼児教育の父】倉橋 惣三 誕生

2016

各学科共通科目

幕末の蘭学者・医学者・教育者 **緒方 洪庵**
(1810～1863年)

【人物紹介】

緒方洪庵は、文化7年（1810）に足守藩士の三男として生まれました。生誕地は、今も城下町の面影を残す岡山市北区足守にあり、岡山県の指定史跡となっています。16歳で元服後、大阪で蘭学医師の門人となりました。鎖国のため、外国の学術･文化はオランダを通じてのみ日本に入りました。それを学ぶことを蘭学と言います。勉強熱心な洪庵は、原書で学ぶため21歳で江戸・長崎へ留学後、29歳のときに大阪で蘭学塾を始めました。これが適々斎塾（適塾）です。ここで、教育者として3千人もの門下生を指導しました。また蘭学書を翻訳するとともに、種痘の普及やコレラ対策に奮闘しました。53歳のときに断り切れず、将軍家茂の侍医となりましたが、生まれつき病弱だった洪庵は、気苦労の多い江戸の生活の中、54歳で急逝しました。

【業績・功績】

蘭学者･医学者として洪庵は、蘭学の医学書を多数翻訳しました。『扶氏経験遺訓』はドイツのフーフェランドによる当時ヨーロッパ随一の内科書『医学必携』を広く知らしめたいと翻訳した全30巻の大作です。『虎狼痢（ころり＝コレラ）治準』は安政５年（1858）に江戸だけで3万人が亡くなったコレラ大流行に際し、急きょ三つの医学書からコレラの項を訳しまとめたもので、当時の治療基準となりました。さらに種痘普及に尽力し、当時の予防医学の第一人者でした。一方で、他の医師が嫌がる往診も快く引き受けました。教育者として、適塾で門下生の個性を伸ばし、福沢諭吉をはじめ幕末から明治維新の時代の重要人物を多数育て上げました。洪庵は決して堅苦しい学者ではなく、和歌にも世俗にも通じ、また常に他人や患者のことを一番に考える誠実な人だったからこそ、このような業績が残せたと言えるでしょう。

緒方洪庵像：緒方洪庵生誕地

<参考文献>
緒方富雄：緒方洪庵伝 第二版増補版, 東京：岩波書店, 1977.
梅溪　昇：緒方洪庵と適塾, 大阪：大阪大学出版会, 1996.

看 護 科

現代看護の祖 **フローレンス・ナイチンゲール**
(Florence Nightingale, 1820～1910年)

【人物紹介】

ナイチンゲールは、イギリスの裕福な両親の旅行中にイタリアで生まれ、高度な教育を受けました。当時、看護職は社会的地位が低く、家族はナイチンゲールが看護師になることを許しませんでした。ナイチンゲールは長年家族の偏見に苦しみましたが、何とか説得し、看護の道を歩み始めました。その後、イギリスで初の看護団を率いて戦地であるクリミアに向かい、傷病者の看護にあたりました。この活躍によって、兵士の死亡率は40%から2%と劇的に減少しました。

戦争から帰還したナイチンゲールは、様々な分野にわたり執筆を続け、看護基金の募金活動や社会的活動に寄与しました。看護学校の創設・運営にもかかわり、ナイチンゲール方式と呼ばれる教育システムを確立させ、看護の分野に多大な影響を与えました。

【現代看護学への影響】

ナイチンゲールは患者を病人として観察し、直接的な世話だけでなく患者の自然治癒力を高めるという看護独自の在り方や考え方を説きました。日本ではナイチンゲール方式が明治時代に導入され、看護学校で本格的な看護教育が始まりました。また、ナイチンゲールの代表的な著書である『看護覚え書』は看護教育機関で基本的な看護書として用いられ、その志は現在も受け継がれています。さらに、功績をたたえ、ナイチンゲールの誕生日である5月12日は「国際看護師の日」という世界的な記念日になっています。

本学科では、2年次に継灯式を行います。式典では、ナイチンゲール像から看護の心の灯火とされる「看護の灯」を受け取り、ナイチンゲール誓詞を唱えます。この式典を通して、学生はナイチンゲールの教えを受け継ぎ、看護の道に進む気持ちを新たにしています。

継灯式：ナイチンゲール像から看護の灯を受け取る

<参考文献>
氏家幸子：看護基礎論, 東京：医学書院, 2004.
クリスティン・ハレット：ヴィジュアル版看護師の歴史, 東京：国書刊行会, 2014.

臨床検査科

顕微鏡の考案・細菌発見者

アントニ・ファン・レーウェンフック

（Antonie van Leeuwenhoek, 1632～1723年）

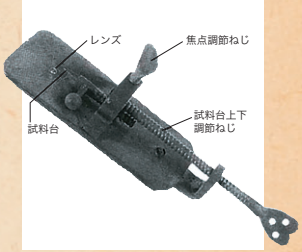
【人物紹介】

細菌学での著名人として名が上がるのは、近代細菌学の開祖とされるパスツール、コッホ、北里柴三郎などですが、彼らはいずれも19世紀に活躍した人たちで、その時代すでに細菌は発見されており、病気との関連について研究された時代でした。その細菌を発見した人物こそ、レーウェンフックです。レーウェンフックは、オランダの商人であり、科学者であり、歴史上初めて顕微鏡を使って微生物を観察した人物で、「微生物学の父」とも称されます。

【現代への影響】

レーウェンフックは専門的教育を受けていませんでしたが、生涯500もの顕微鏡を作ったとされ、自作の顕微鏡で大量の生物学上の発見をしました。レーウェンフックの顕微鏡は、直径1㎜程度の球形のレンズを金属板の中央にはめ込んだだけの単眼式のものでした。1676年、池の水を観察していたレーウェンフックは、これまで誰も報告したことのない奇妙な動く物体を発見し、微小動物（animalcule、アニマルクル）と名付けました。このとき顕微鏡の倍率は約200倍に達していたと言われています。レーウェンフックの発見の中には、当時の生物学専門家には知られていなかった新発見が多数含まれており、その他にも赤血球が毛細血管を通ること、精子、骨格筋の横紋なども発見しています。

レーウェンフックにちなんで創設された「レーウェンフック・メダル」は、オランダ科学アカデミーが授与する微生物学の賞で、10年ごとにその10年間で最も顕著な発見を行った科学者に対して授与されます。微生物学の表彰としては最高栄誉とされ、1895年には、パスツールが授与されています。



レーウェンフックの顕微鏡

<参考文献>
C.Dobell著,天児和暢訳：レーベンフックの手紙，福岡：九州大学出版会，2004.
天児和暢：レーウェンフックの観察記録，日本細菌学雑誌69（2）：315-330，2014.

放射線技術科

X線撮影の祖

ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン

（Wilhelm Conrad Röntgen, 1845～1923年）

【人物紹介】

レントゲンは、1845年にドイツのレンネップで生まれ、1869年に物理学の分野で博士号を取得しました。その後、いくつかの大学で教職を務め、ヴュルツブルグ大学物理学研究所長となったレントゲンは、1895年11月8日に、クルックス管（真空放電管）の研究をしていたとき、目には見えない光線が発生しているのを確認しました。すぐにこの光線の特性について実験を行い、同年12月28日に"Über eine neue Art von Strahlen"（「新種の放射線について」）という論文をヴュルツブルク物理医学協会に提出しました。この光線は、数学の未知の数をあらわす「X」の文字を使いX線と名付けられました。この功績が認められ、1901年に“X線の研究”で第1回ノーベル物理学賞を受賞しました。

【現代医療への影響】

レントゲンの功績はX線の発見・研究ですが、その中でも特に、X線によって人体内部を非侵襲的に画像化したことが、医療分野に大きな恩恵を与えました。X線発見から120年経った現在でも、X線撮影（レントゲン撮影）は、誰もが一度は経験する現代医療には欠かせない検査法として確立しています。また、X線を利用したCT（コンピュータ断層撮影）検査や高エネルギーX線を用いたガン治療など、様々な検査・治療にも応用されています。

本学科が養成する診療放射線技師は、医師の指示のもと、X線を人体へ照射できる特別な権限（独占業務）が与えられています。X線撮影によって患者は多少の放射線被ばくを受けるため、「諸刃（もろは）の剣」の一面を持つX線を取り扱うには、深い専門的知識と技術の習得が必要とされます。

X線発見当時の手のX線写真

<参考文献>
小塚隆弘，稲邑清也監修：診療放射線技術（上巻）改訂第13版，東京：南江堂，2012.
中澤靖夫：エックス線発見120年のあゆみ，東京：公益社団法人日本診療放射線技師会，2015.

医療介護福祉科　現代介護福祉の祖　光明皇后
(701～760年)

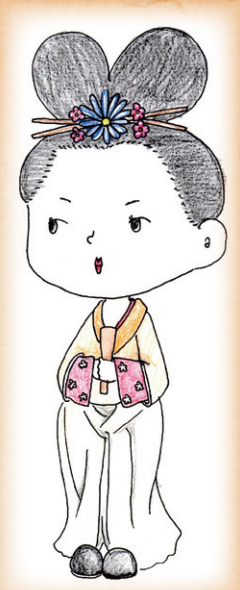
【人物紹介】

光明皇后は、奈良時代の聖武天皇の皇后で、孝謙天皇の母でもあります。時の権力者の藤原不比等の娘であり、王族以外から立后された初例と言われています。皇后は一途に天皇を支え、人民の安寧のために仏教にあつく帰依し、東大寺や国分寺、国分尼寺を設立しました。また、皇后が夫の聖武天皇を想って詠んだ和歌として、万葉集の中に「我が背子と　二人見ませば いくばくか この降る雪の　うれしからまし」があります。

当時は疫病の流行や天災、争乱が続く混乱の時代であり、災いが収まることを願って、仏教を中心とした国造りを天皇と共に積極的に行いました。また、仏教に深く帰依した皇后は、民衆を救うため興福寺内に、貧しい人に施しをする医療施設と言える「施薬院」、孤児や老人などを収容しお世話をする福祉施設と言える「悲田院」を創立し運営するなど、仏教思想による慈善事業にも多く着手したと言われています。

【現代介護への影響】

「太后慈愛」のもと、光明皇后が興福寺に開設した「悲田院」が現在の福祉施設の始まりであり、我が国における老人施設の最初であったと言われています。「悲田院」では、仏教の「博愛慈恵」の思想のもと、出家者や当時の皇后に仕えた公奴婢たちが、お年寄りなどのお世話をしていたと考えられています。つまり、このような光明皇后のもとで働いていた人たちが現在の介護福祉士の始まりではなかったでしょうか。



作：医療介護福祉科　2年
　　桒田 未悠、酒井 希枝

<参考文献>
宮城洋一郎：日本佛教救済事業史研究, 京都：永田文昌堂, 1993.
田宮仁, 長谷川匡俊, 宮城洋一郎：仏教と福祉, 広島：渓水社, 1994.
一番ケ瀬康子：新・介護福祉士とは何か, 京都：ミネルヴァ書房, 2000.

医療保育科　我が国の幼児教育の父　倉橋 惣三
(1882～1955年)

【人物紹介】

倉橋惣三は、静岡県に生まれ、幼少期を津山市と岡山市で過ごしました。東京帝国大学大学院児童心理学を修了し、東京女子高等師範学校講師を経て、1917年に教授に就任するとともに同学校附属幼稚園の主事となり、形式化した明治以来のフレーベル主義を改革、幼児教育の発展に尽くしました。戦後の1948年には日本保育学会を創設して初代会長に就任し、没するまで会長職にあたりました。「我が国の幼児教育の父」「日本のフレーベル」と呼ばれています。

【現代幼児教育への影響】

倉橋は子どもの自発と心情を重視する自然主義的児童観によって、明治以来の形式的な恩物（遊具）主義を排し、自由遊びを重んじました。子どもの生活とルールに根差した「自己充実」を目指し、そのための「誘導」を保育の真髄としました。1948年に刊行した幼児教育の手引き書「保育要領」は、その後の改訂を経て、今日の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に至っています。彼の保育思想は、当時の新しい流れを生み出す推進力となると同時に、保育の基礎を支える理論として、今日まで非常に大きな影響を持ち続けています。

墓所の碑には、「自ら育つものを育たせようとする心　それが育ての心である　世の中にこんな楽しい心があろうか」と刻まれています。

倉橋 惣三と子どもたち

<参考文献>
諏訪義英：日本の幼児教育思想と倉橋惣三, 東京：新読書社, 2007.
森上史朗：子どもに生きた人・倉橋惣三の生涯と仕事（上）（下）, 東京：フレーベル館, 2008.

2016 March Message 担任から卒業生へ

看護科　3年担任
福武 まゆみ

ご卒業おめでとうございます。看護師を目指して入学し、看護の基礎となる知識を身につけ、また、実習を乗り越えてきた皆さんの大きく成長した姿を見て、とてもうれしく、誇りに思います。本学を巣立った皆さんは、4月から新人看護師として、新たな職場のそれぞれの部署へと配置されますが、そこで待ち受けている喜びや試練に向けて、皆さんの心は期待と不安でいっぱいだと思います。

野球のイチロー選手は、「壁というのは、できる人にしかやってこない。超えられる可能性がある人にしかやってこない。だから、壁があるときはチャンスだと思っている」と言っています。看護師をしていく中で、壁にぶつかることもあるでしょう。そのときは、この言葉を思い出し、努力をしてください。本学で学んだ皆さんは、必ず乗り越えることができると信じています。でも、辛くなったらいつでも顔を見せに来てくださいね。皆さんのご活躍をお祈りしています。

看護科　3年担任
岡田 みどり

看護科の皆さん、ご卒業おめでとうございます。3年間の短大生活の中で、楽しかったこと、辛かったこと色々経験しましたね。特に看護学生にとって避けて通ることができない臨地実習と国家試験は大きなハードルでした。プレッシャーや不安から逃げ出したいと思った人もいたと思います。

社会人になっても幾多の試練が必ず訪れます。周囲の人に支えられながらも、最終的には自分の力で乗り越えなくてはいけません。試練は人を成長させますし、試練をチャンスに変えることもできるのです。苦難の後には良いことが必ず待っていると信じ、諦めないで持てる力を尽くすこと。どうか人に勝つことよりも自分に負けない人になってください。今を大事に、そして、自分自身も大切にしてください。皆さんの成長と皆さんが幸せであることを心より願っています。

臨床検査科　3年担任
永瀬 澄香

輝く未来に向けて、夢の翼を広げ、希望を抱いて飛び立ちましょう！友人と互いに励まし合いながら純粋な心で医療を学んできた皆さんは、この3年間でかけがえのない宝物を手に入れたことでしょう。何事も、決して諦めることなく乗り越えることでたくましく成長し、さらには素晴らしい輝きを放つ人になれたと思います。未来に向けて自分の夢を描き続けてください。どんなときにも感謝と賛嘆の心を忘れず、やさしい笑顔を大切にして勇気を出して前進しましょう。そして、本学の建学の理念である“人をつくる”という大切な教えを忘れず、多くの方の“いのち”を守り、臨床検査技師としての使命を果たしてください。心豊かな医療人として自信と誇りを持って社会に貢献してもらいたいと願います。皆さんの未来に幸多かれと心より祈ります。ご卒業おめでとうございます。

放射線技術科　3年担任
林　明子

ご卒業おめでとうございます。卒業を迎えて、感慨深く学生生活を振り返っていることと思いますが、入学時に、最初にお話ししたことを覚えているでしょうか。自尊心を持ってください、本学の学生として己を恥じることのないように過ごしてください、と話をしました。目標を達成して次のステップに進もうとしている皆さんは、今、頑張った自分に対して誇らしい気持ちでいっぱいだと思います。入学時にお話ししたことを実践して、今日という日を迎えられました。本学での経験を自信につなげて、自分を信じ、強い気持ちでこれからの人生を歩んでいってください。

4月には社会人1年生として、新たなスタートラインに立ちます。周囲への感謝の気持ちを忘れず、素直な気持ちで多くのことを学び、さらに成長してください。診療放射線技師としてのご活躍をお祈りしています。

医療介護福祉科　2年担任
山田 順子

ご卒業おめでとうございます。2年間の学内での講義・演習、学外実習を経て、介護福祉士としてのスタートラインに立つ皆さんは、入学式のころから大きく成長しました。今、その姿がとても眩(まぶ)しく見えます。

医療療介護福祉科での学びを身につけ、これからは、介護の専門職として介護の将来を担うリーダーとなって活躍されることを期待しています。また、本学で学んだことは、今後の人生においても、子育てや親の介護、自分の老後など、様々な場面で必ず役に立つことと思います。

介護という仕事は、人と人とが向き合う仕事であり、それゆえの大変さも少なくありません。相手を変えようとするのではなく、自分が少し変わってみるという気持ちを持ってください。利用者にも自分にもいろいろな可能性があることを信じて、介護の道を究めてください。皆さんの今後のご活躍をお祈り申し上げます

医療保育科　3年担任
重松 孝治

ご卒業おめでとうございます。皆さんはいつも「先生」と私のことを呼んでくれます。では実際に私は、「先に生きる者」として十分な存在でありましたか。私の言葉、表情、しぐさ、行動は皆さんにとって、先を示す指針となったのでしょうか。いつもそんなことを考えながら、皆さんの前に立っていました。きっとこれからも、「先生」と呼ばれるたびに私はこのことを考えているでしょう。もうすぐ皆さんの多くは、子どもたちに「先生」と呼ばれる立場になります。これからは皆さんが「先に生きる者」として、たくさんの経験、感動、そして喜びと悲しみを子どもたちと分かち合い、多くの愛情を子どもたちに注ぐのでしょう。皆さんにとってこの言葉がどのような意味を持つのか、そんなことを考えながら皆さんの門出を見送りたいと思います。

これからの皆さんの人生が素敵なものであることを心より願っています。

医療保育科　3年担任
宮津 澄江

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。社会人になれば、今まで以上にいろいろな人と出会うことになると思います。どんな出会いも一つとして無駄なものはありません。それぞれの出会いの中で「人」を大切にできる、そんな大人になってください。そして、これからは多くの子どもたちに保育士として関わっていくと思います。いろいろな状況にある子どもたちがどうしたら笑顔になれるのかを考え、笑顔が見られるような関わりを心掛けてください。あなたの笑顔が子どもたちに伝わっていきますように。笑顔のあるところに希望が生まれます。これからの人生、楽しいこと、うれしいこと、辛いこと、悲しいこと、いろんな事を体験するでしょう。そんなとき、いつも前を向いて笑っていてください。そして、いつも輝いていてください。新しい門出にあたり、今一度「おめでとう」の言葉を送ります。

栄えある受賞者

平成 27 年度卒業証書・学位記授与式は3月 15 日に挙行され、「学業成績優秀で、品行がすぐれ、他の学生の模範とするに価する」と認められた学生に『学長賞』と『学科賞』が贈られます。

【学長賞】全卒業生のうち、特に優れた学生であると認められた場合に表彰されます。
【学科賞】各学科から1人が表彰されます。

学長賞

臨床検査科
木村 正樹

放射線技術科
宮嶋 佑旗

学科賞

看護科
助永 千夏

臨床検査科
安藝 綾香

放射線技術科
川崎 侑紀

医療介護福祉科
酒井 希枝

医療保育科
武田 美咲

留学生帰国

再会（ジァイジェン）、日本の皆さん

日本の看護学を学ぶために上海から本学へやって来た2人の留学生が、約 3 年半の留学期間を無事に終え、帰国の途に就くことになりました。

今後ますますのご活躍をお祈りします。

潘（はん） 文燁（ぶんよう）
（看護科）

楊（よう） 晨（しん）
（看護科）

松丘会（本学同窓会）による学生表彰

松丘会は、在学生に対する教育支援事業の一環として学生表彰を行っており、本年度で4年目になります。この表彰は、学業や学外活動などにおいて他の模範となるような功績を修めた学生や団体を学科や部顧問が推薦し、松丘会に表彰していただいているものです。

平成 27 年度は、去る２月４日に小池 将文学長、名木田 恵理子副学長の臨席のもと、松丘会会長小郷 正則氏から、以下の５人と３団体に表彰状と記念品が授与されました。

個人の部

学科・学年	氏　名	表彰理由
看護科３年	冨士枝 孝	大学広報活動に貢献するとともに、米国災害教育プログラム BDLS プロバイダーなど救急関連の資格を取得し研修会で活躍した。
放射線技術科３年	宮嶋 佑旗	第1種放射線取扱主任者合格
医療保育科３年	砂川 怜香	学業成績優秀であり、大学行事やボランティア活動に熱心に取り組んだ。
放射線技術科２年	石部 直之	第1種放射線取扱主任者合格
放射線技術科２年	橋本 二春	第1種放射線取扱主任者合格

団体の部

団体名	氏　名	表彰理由
学友会執行部	代表：佐々木 あゆみ（前委員長）	年間 12 回にわたる地域安全パトロール活動とともに倉敷警察署との連携活動など広く地域安全活動に貢献した。
ダンススポーツ部	代表：長江 莉穂（前部長）	平成 27 年中四国学生ダンススポーツ大会新人戦（6 月、11 月）総合優勝、岡山県ダンススポーツ競技会（もも太郎部門ラテン）において優勝をするなど積極的に部活動に参加し優秀な成績を収めた。
献血ボランティア部	代表：山口 葉月（前部長）	キッズ献血活動や学生献血キャンペーンなど 11 回にわたって献血推進活動を実施した。

学友会 新役員紹介

学友会委員長
臨床検査科１年
足立 菜々美

皆さん、こんにちは。

学友会委員長を務めることになりました足立菜々美と申します。

平成 27 年度の学園祭終了後、新たに 3 人の学友会役員が任命され、執行部は 14 人となりました。昨年より人数が大幅に減りましたが、個々の持ち味を発揮しながら活動しています。引き継いだ当初は一つひとつの仕事をやり遂げられるか不安でいっぱいでしたが、初仕事であるクリスマスパーティーでは様々な課題を抱えながらも一つずつクリアすることができました。

学友会では、毎年、様々なイベントを企画・運営しています。来年度の学園祭では、本学の学生だけでなく、学園全体、また、地域の方々も楽しめる企画をしたいと考えています。また、安全パトロールでは地域の方々に気持ちの良い挨拶を行い、大学周辺の清掃・安全に貢献していきたいと思っています。私たちは、強い責任感と、どんな壁が立ちはだかろうと強い団結力で乗り越えられる行動力を持っています。常に皆さんの声に耳を傾け、皆さんに楽しんでもらえるイベントを企画できるよう努力していきます。

まだまだ慣れないことがたくさんあり、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、温かく見守っていただけると幸いです。今後、学生の良き見本となれるように努力していきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

医　療　保　育　科

第９回 オペレッタ発表会

医療保育科では、子どもの表現活動を豊かにするとともに、それを楽しむことができる保育者育成の一環として、毎年、3年生の必修科目である「総合表現Ⅰ・Ⅱ」の中でオペレッタ制作に取り組んでいます。この授業は、言語活動や音楽、造形、身体表現の領域を総合的に捉え、仲間と協力したり、意見をぶつけ合ったりしながら一つの作品を作り上げる中で、保育者に必要な感性や表現技能、創造力、コミュニケーション能力を身につけていくことを目的にしています。

オペレッタ制作の合言葉は「最後まで諦めずに作り続ける」です。物語の展開や体の動かし方、発声、音楽、造形などなど…「子どもたちに伝えたいテーマをどう表現したらよいか」を軸に、試行錯誤しながら「作っては壊し、また作る」を繰り返していきます。

そういった過程を経て、今年は「桃太郎」「ヘンゼルとグレーテル」「おむすびころりん」「3人の小人と魔法の花」「宇宙船にのって」の5タイトルを、平成28年1月23日（土）と1月27日（水）に上演しました。23日の1回目公演には、地域からの一般参加者や子どもたち、医療保育科の卒業生、在学生の保護者を中心に207人の参加をいただき、3年間の学修の集大成を披露することができました。また、27日の2回目公演では、地域の保育園の年長児（約100人）をお招きし、在学の1・2年生と一緒に鑑賞してもらいました。子どもたちの期待に満ちた表情と素直な反応のおかげで、とても温かい雰囲気の発表会となりました。

オペレッタ発表会はその華やかさに注目が行きがちですが、そこに至るまでにうまく表現できない自分に向き合ったり、仲間との意見の食い違いを経験したりと、様々な葛藤を乗り越えていきます。目には見えませんが、その中で得られた自信と仲間との絆を一生の宝物にして、保育現場で活躍してほしいと思います。

（医療保育科　入江 慶太）

平成 27 年度

FD・SD 研修会の報告

本学では、より良い教育づくりに向けた教職員の研修の場として、FD･SD 研修会を開催しています。FD（Faculty Development）研修会は、主に教員を対象とする教育力を、SD（Staff Development）研修会は、主に職員を対象とする組織力を高めるための取り組みです。

第１回 FD 研修会講師
山口 恒夫顧問

平成27年度のFD研修会は、「本学のPDCAサイクルを実効化しよう－『評価』を中心に－」を年間テーマに掲げています（表1）。PDCAサイクルは、近年の教育改革のキーワードであり、教育活動をP（Plan＝計画）→D（Do＝実践）→C（Check＝評価）→A（Act＝改善）の循環として捉え、各側面を改善しながら、より良い教育づくりを目指すものです。今年度は、PDCAサイクルの中でも最も教育改善につながるとされるC（Check＝評価）に焦点を当てています。

第1回は、長期スパンの評価として、前学長の山口 恒夫顧問を講師に迎えました。平成18年度･25年度と過去2回の第三者評価を乗り越えてこられた貴重な経験を踏まえて、平成32年度の第三者評価に向けた本学の課題と展望について示唆に富む研修となりました。第2回は、中期スパンの評価として、放射線技術科の原内 一教授を講師に、平成22年度に文部科学省より選定された大学教育推進プログラム「学士力向上のための統合的教育戦略」の総括に関する研修を行いました。助成金獲得の難しさとともに、その意義をじっくり考える機会となりました。第3回は、短期スパンの評価として、川崎医療福祉大学教職課程センター長の山中 信幸教授を講師に、授業の振り返りと評価の方法について、研修を行う予定です。

表1：平成27年度 FD研修会

第１回 FD研修会
日　時：平成27年10月8日（木）16：30～17：15
講　師：医療保育科　山口 恒夫顧問
テーマ：**「第三者評価に向けた本学の課題と展望 –過去2回の第三者評価経験を踏まえて–」**
第2回 FD研修会
日　時：平成28年2月4日（木）16：30～17：30
講　師：放射線技術科　原内 一教授
テーマ：**「GP の総括を通じて PDCA を考える」**
第3回 FD研修会
日　時：平成28年3月24日（木）16：30～17：30
講　師：川崎医療福祉大学教職課程センター長　山中 信幸教授
テーマ：**「授業の振り返り・評価の方法について」**

第１回 SD 研修会講師
西﨑 大修教務課長代理

平成27年度のSD研修会は、学外組織との連携・協力を年間テーマにしています（表2）。

第1回は、高等学校との連携・協力をテーマとして、元岡山南高等学校校長である教務課の西﨑 大修課長代理から、高等学校の現状を踏まえた、近年の高大接続の動向に関するお話をいただきました。第2回は、私立短期大学協会との連携・協力をテーマとしました。まず、私立短期大学協会の委員の経験のある医療保育科の橋本 勇人教授から、大学と関係する各種団体における私立短期大学協会の位置付けと役割に関する総論的な講演がありました。その後、教務課の植田 京子課長から、同協会が実施する入試広報担当者研修会に関する報告があり、学生募集に関する貴重なお話を伺いました。続いて、教務課の足立 千夏事務職員から、同協会が実施する教務担当者研修会に関する報告があり、各短期大学の教務に関する新しい取り組みなど興味深い事例が紹介されました。SD研修会も毎回、各講師の講演後には熱心な質疑応答がなされました。

表2：平成27年度 SD研修会

第1回 SD研修会
日　時：平成27年11月5日（木）16：15～17：15
講　師：教務課　西﨑 大修課長代理
テーマ：**「高大接続改革の動向」**
第２回 SD研修会
日　時：平成27年12月8日（火）16：30～17：30
講 師1：医療保育科　橋本 勇人教授
テーマ１：**「大学と関係する各種団体と私立短期大学協会」**
講 師2：教務課　植田 京子課長
テーマ２：**「入試広報担当者研修会に参加して」**
講 師3：教務課　足立 千夏事務職員
テーマ３：**「教務担当者研修会に参加して」**

これらの研修会を通して、各教職員が長期・中期・短期の視野に立って日頃の教育を振り返るとともに、他機関とも連携したより良い教育づくりをできればと考えています。　（FD･SD 委員会委員長　中原 朋生）

地球温暖化対策ワーキンググループだより NO.31

川崎エコプロジェクト

照明スイッチはこまめに切りましょう!

地球温暖化問題などの環境問題はますます深刻になっています。温暖化対策には CO_2 排出量を抑える省エネルギーが不可欠です。そして、その実現は、我々一人ひとりの考え方や取り組みにかかっています。例えば、教室やトイレの照明スイッチをこまめに切り、無駄に電気を使用しないことも大切です。

コストを計算してみると省エネ活動もより身近に感じられるかもしれません。電気料金を 20 円 /kWh とすると、40W の蛍光灯 1 本の電気代は 1 時間で 0.8 円です。1 つの教室では、32 本 ×0.8 円= 25.6 円、トイレは、4 本 ×0.8 円= 3.2 円です。教室にある 5.5kW の空調機 1 台の電気代は 1 時間で 110 円です。もし 1 日 8 時間、1 年で 250 日、1 つの教室の蛍光灯と空調機をつけっぱなしにすると、27 万 1,200 円にもなります。

我々一人ひとりが照明スイッチをこまめに切る習慣をつければ、コストの削減と省エネにつながります。さらに、身の回りの省エネを行っていくことで、温暖化対策に寄与できるのではないでしょうか。

（機械室設備技術員　森広 卓己）

防災訓練

秋の全国火災予防運動にちなんで、本学では 11 月 25 日（水）15 時から消防訓練を実施しました。川崎学園警備課と岡山精電工業株式会社の協力のもと、教職員 42 人が参加し、東校舎北側で実地訓練を行いました。服部 明彦事務部長の挨拶に続いて、消火栓を使った放水実技と消火器による実技を教職員が順次体験しました。

最後に、原田 文夫警備課長より、日頃から防災意識を持つようお話があり、今年度の訓練を滞りなく終了しました。短時間でしたが、火災予防意識の高揚を図り、初期消火のための知識と技能を身につける良い機会となりました。　（庶務課　桑田 俊明）

公開授業

医療介護福祉科

医療介護福祉科では、昨年度から介護に関心のある高校生を対象に公開授業を行っています。今年度は平成 28 年1月 23 日（土）に、「生活支援（食生活）」と「介護技術」の 2 科目で開催しました。テーマは、「チームケアで‘おいしい’を叶えたい－栄養管理と食事のケア－」です。介護や医療の現場では、様々な職種が連携して利用者の食生活を支えます。人を良くすると書いて「食」という字になるように、「食」は人に生きる希望をもたらします。その食生活に関わる管理栄養士と介護福祉士の取り組みについて講義を行いました。

まず、高齢者の食生活に影響を及ぼす身体や嚥下（えんげ）機能の変化を説明し、かぶの煮物の普通食とソフト食、ムース食を比較しながら試食してもらいました。食事形態による食感の違いを納得いただけたと思います。続いて、食事中の姿勢や観察項目、環境調整、スプーンテクニックなど、食事介助のポイントを確認し、2 人 1 組で食事介助に挑戦しました。皆さん、一口の量やタイミング、言葉かけがうまく感心しました。

授業後には全員で焼きたてパンを食べながら、在学生や教員と楽しく交流しました。　（医療介護福祉科　辻 真美）

平成28年度 公開講座

第1回【医療介護福祉科】

講座名：「いつまでも健康でいるために ～介護予防のために私たちができること～」

講　師：安本 勝博（津山市役所健康増進課 作業療法士）
日　時：6月18日（土）10：00～11：30
会　場：本学 体育館 101教室

第2回【放射線技術科】

講座名：「乳がんの発見から治療まで」

講　師：紅林 淳一（川崎医科大学 乳腺甲状腺外科学教授／川崎医科大学附属病院　乳腺甲状腺外科部長）
余田 栄作（川崎医科大学 放射線医学（治療）准教授／川崎医科大学附属病院　放射線科（治療）副部長）
佐藤 朋宏（川崎医科大学 放射線医学（画像診断1）臨床助教／川崎医科大学附属病院　放射線科（画像診断）シニアレジデント）
鈴木 智子（川崎医科大学附属病院　中央放射線部副主任技師／本学非常勤講師）
日　時：9月10日（土）10：00～12：00
会　場：本学 体育館 101教室

第3回【医療保育科】

講座名：「発達障がいのある子どもへの支援 ～意味あるやりとりを目指して～」

講　師：重松 孝治（本学医療保育科講師）
日　時：10月8日（土）14：00～16：00
会　場：本学 体育館 102教室

オープンキャンパス

平成28年

本学と川崎医療福祉大学、川崎リハビリテーション学院の3施設合同入試を実施するに伴い、入試制度が大きく変わります。詳細は3施設合同オープンキャンパスおよび本学オープンキャンパスでお伝えいたします。保護者、教員の皆様もお気軽にお越しください。事前の参加申し込みは不要です。
※3施設合同オープンキャンパスの受付は川崎医療福祉大学で行います。

開催日時	備考
3月21日（月）　13：00～16：00	合同オープンキャンパス
5月21日（土）　13：00～16：00	本学オープンキャンパス
6月19日（日）　10：00～15：30	合同オープンキャンパス
7月24日（日）　10：00～15：30	合同オープンキャンパス
8月20日（土）　13：00～16：00	本学オープンキャンパス
9月　4日（日）　10：00～15：30	合同オープンキャンパス

なお、学校見学は随時受け付けています。その他詳細は、教務課までお問い合わせください。
【TEL】086-464-1033（受付／平日 8:30～17:00、土曜 8:30～12:00）

主要行事（4月～6月）

4月	1日	新入生オリエンテーション（～6）
	4日	入学式
	〃	協助会総会（体育館 11：00～）
	〃	臨床検査科3年臨床実習開始（～7/21）
	5日	放射線技術科3年臨床実習Ⅱ開始（～7/28）
	6日	新入生健康診断
	9日	川崎学園入学時合同研修
	〃	日本学生支援機構奨学金説明会
	11日	看護科3年臨地実習開始（～9/27）
5月	11日	医療介護福祉科2年介護実習Ⅲ開始（毎週水曜）（～7/13）
	14日	スポーツ大会
	23日	医療保育科3年幼稚園実習開始（～6/25）
6月	1日	学園創立記念日
	7日	医療介護福祉科1年介護実習Ⅰ開始（毎週火・水曜）（～7/6）
	14日	医療保育科保育実習開始式
	15日	医療保育科2年保育実習Ⅰ開始（～25）
	18日	第1回公開講座
	19日	3施設合同オープンキャンパス

平成28年度 推薦入試結果

試験日：11月29日（日）合格発表：12月4日（金）

	看護科	臨床検査科	放射線技術科	医療介護福祉科	医療保育科	計
募集人員（名）	40	7	10	25	27	109
志願者数（名）	104	59	87	9（第2希望含）	37	296
志願倍率（倍）	2.6	8.4	8.7	0.4	1.4	（平均）2.7
合格者数（名）	57	13	16	8（第2希望含）	29	123

平成28年度 一般入試前期結果

試験日：1月31日（日）合格発表：2月5日（金）

	看護科	臨床検査科	放射線技術科	医療介護福祉科	医療保育科	計
募集人員（名）	45	33	32	10	10	130
志願者数（名）	122	111	121	14（第2希望含）	12	380
志願倍率（倍）	2.7	3.4	3.8	1.4	1.2	（平均）2.9
合格者数（名）	88	50	51	14（第2希望含）	12	215

平成29年度の入試概要は6月以降に本学ホームページで公表します。詳細については、学生募集要項でご確認ください。

入試に関する問合せ先
〔教務課〕TEL：086-464-1033
Eメール：nyushi@jc.kawasaki-m.ac.jp

学生表彰

日本介護福祉士養成施設協会	会長賞	桒田 未悠
全国保育士養成協議会	会長表彰	伊東 香波

川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」（92号）
2016年3月発行
編集発行：広報誌編集委員会
河邉 聡子（医療介護福祉科・委員長）
見尾 久美恵（一般教養・副委員長）
重田 崇之（一般教養）
沖田 聖枝（看護科）
迎 由利子（臨床検査科）
天野 貴司（放射線技術科）
重松 孝治（医療保育科）
桑田 俊明（庶務課）
松井 美奈（庶務課・書記）
写真協力：二葉写真館
印　　刷：友野印刷株式会社
皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。
〒701-0194 倉敷市松島316
川崎医療短期大学 広報誌編集委員会
電話：086-464-1032（庶務課）
Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp
ホームページ　http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

編集後記

3月は別名「弥生」と言います。草木がいよいよ生い茂る月という意味があるそうで、自然のサイクルでは一足早い春の「始まり」の月です。寒さの中にも春の訪れが感じられるようになり、小さな春の象徴を見つけると何だか幸せな気持ちになれるものです。一方、3月は卒業の季節です。卒業というと別れのイメージが強く、さみしい気持ちになりがちです。しかし、アメリカでは学位授与式（卒業式）のことをcommencementと言うそうで、この言葉の本来の意味は「始まり」です。卒業は終わりではなく、新たな歩みの始まりと捉えているようです。

今回の特集では、この始まりの季節にふさわしく、学問の始まりすなわちルーツを探ることに焦点を当てました。どの学問も興味深く、記事を読むと長い歴史の一部に触れることができます。今回の特集がぜひ皆さんの既知の分野の知識を掘り下げたり、新たな分野の学問に触れるきっかけになればと思います。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず、原稿依頼を快くお引き受けくださった執筆者の皆様に深くお礼申し上げます。　（看護科　沖田 聖枝）

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。